

1 研究主題

自分なりの目標をもって学び続けることのできる児童の育成
～ 自分に合ったペースや方法で学ぶ活動を通して ～

2 研究主題について

本校は、「ナゴヤ学びのコンパス」の自律した学び手を目指し、自分なりの目標を設定したり、その目標に向かって計画を立てたりすることに取り組んできた。昨年度は、自分に合った目標を選択し、できるようになる楽しさを味わわせることに重点を置いて体育科の授業実践を進めてきた。自分なりの目標をもつことで、学習への意欲を高めたり、目標の達成を目指して友達と協働したりする姿が見られた。このような『ナゴヤ学びのコンパス』を意識した授業づくりを各教科において、さらに進めていきたい。

そこで本年度は、学びの目標（単元の目標・本時の目標）を基に、学びの計画を立てることを子どもに委ねる。この学びの計画を通して、「今日はこういう目標で勉強に取り組もう」、「この授業でここまでできるようにしよう」という、学習に見通しをもつことや授業を設計したり、学び方を選択したりすることで、自分の成長を振り返ることができるようにしていく。このように、目標を達成するための過程を大切にしながら自己理解を促す活動を「自分に合ったペースや方法で学ぶ活動」と位置付ける。その中で、子どもの自分なりのチャレンジを大事にしながら、次の目標へと向かって学び続けることができる児童を育成していく。

3 研究の内容

(1) 目指す児童の姿

自分が決めた学び方を繰り返し試すことを通して、自分の状況を客観的に把握し、自分に合ったペースや方法で学び続けることができる児童。

(2) 手立て

学習を見通す ルーブリック（評価項目と評価基準）

単元全体や本時の評価項目と評価基準を子どもに提示することにより、目標設定をはじめとする自己評価、自己調整の基準とする。

（例）スピーチのルーブリック表（抜粋）

	評価点		
	1	2	3
評価項目	声の大きさ	なんとか声が聞こえる	しっかりと聞こえる。
	話すスピード	なんとか聞き取れる	一言一言がしっかりと聞き取れる。

学習と向き合う 本時の計画・単元の計画（自由進度学習）

学び（単元）の目標に向かって、1時間（1単元）の学習をどのように進めるのかを子どもに設計させる。

学習方法を選ぶ 学びの環境

自己評価したことを基に、誰と学習するのか（友達、先生、自分一人など）、どこで学習するのか（教室、図書室など）、何を使って学習するのか（タブレットかノートか、インターネットか本かなど）を自己選択させる。

学習を振り返る 学びの振り返り（ログブックの活用）

うまくできたことや自分がうまくいかなかったこと、つまづいたことを振り返り、次時以降の学びへ活かすことのできるような学習ログを残させる。

(3) 手立ての検証

- 年間通して実践を行い、児童の発言や様子、ワークシートの記述の変容をみる。
- 児童の実態調査やアンケートを通して、実践前と実践後の変容をみる。